

令和元年6月13日

保護者のみなさま

横浜市立釜利谷南小学校
校長 田中 さくら

横浜市立学校 熱中症対策ガイドラインに基づく暑さ対策について

日頃から、本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、ありがとうございます。

さて、昨年の猛暑を受け、教育委員会事務局において「横浜市立学校 熱中症対策ガイドライン」【試行版】が策定されました。

このガイドラインでは、裏面の表のとおり「暑さ指数（WBGT数値）が31℃以上（温度（目安）では35℃以上）では、『体育などの運動は中止』」等、暑さ指数（WBGT数値）に応じた学校のとるべき対応が示されました。

ここ数年の異常な暑さにより、学校教育を行う上での支障が出てきていることは、皆様もご承知の通りです。特に体育の学習は、この試行版に則って対応をしていくと、屋外での運動ができない状況も出てきます。

また、校外学習や運動会の練習、運動会当日についても、実施できない状況が想定されます。

しかし、教育委員会事務局からは、ガイドラインに則って、学校が、適切に対応するよう求められています。そこで、学校では、児童の安全を第一に考え、この指示に従い、熱中症からの児童の安全の確保を図っていきます。

どうぞ、保護者の皆様の御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

なお、水筒の扱いにつきましては、次のように児童に伝えていますので、ご理解・ご協力をお願いいたします。

【本校の水筒の扱いについて】

- 本校では、暑い時期の水筒の持参について、熱中症予防の観点から次のようにしています。
- 水筒を持参してもよい期間は、運動会練習開始日～9月末迄です。
 - 他の人と回し飲みはしないようにしましょう。
 - 水筒を持たせる際には、衛生面に十分留意してください。
 - 水筒の中身は、水かお茶としますが、熱中症予防として、スポーツ飲料水も可とします。

暑さ指数（WBGT）と学校の対応

（「横浜市立学校 熱中症対策ガイドライン」 試行版】 5 頁より抜粋）

暑さ指数 （WBGT数値） 乾球温度（目安）	日常生活における 熱中症予防指針 （日本生気象学会）	熱中症予防のための運動指針 （（公財）日本スポーツ協会）	学校生活を安全に過ごす ために
WBGT 31℃以上 乾球温度（目安）35℃以上 危険 （運動は原則中止）	外出はなるべく避け、涼しい室内へ移動する。	特別な場合以外は運動を中止する。特に子どもの場合には中止すべき。	体育などの運動は中止。 屋外や体育館での活動 ^{※2} は、中止又は活動時間の短縮。
WBGT 28～31℃ 乾球温度（目安） 31℃～35℃ 嚴重警戒 （激しい運動は中止）	外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。	熱中症の危険性が高いので、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。運動する場合には、頻繁に休息をとり水分・塩分の補給を行う。体力の低い人、暑さになれていない人は運動中止。	激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は原則中止。 なお、健康チェックや水分・塩分補給など健康管理を徹底し、練習内容、場所、時間、服装などに配慮した上で活動することが可能。肥満や体力等個人の条件、体調を考慮し、運動を軽減、中止する。
WBGT 25～28℃ 乾球温度（目安） 28℃～31℃ 警戒 （積極的に休息）	運動や激しい作業をする際は定期的に十分に休息を取り入れる。	熱中症の危険が増すので、積極的に休息をとり適宜、水分・塩分を補給する。激しい運動では、30分おきくらいに休息をとる。	積極的に休息をとる。 激しい運動の場合は、30分おきに1回以上の休息をとるとともに、水分・塩分を補給する。
WBGT 21～25℃ 乾球温度（目安） 24℃～28℃ 注意 （積極的に水分補給）	激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。	熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。 熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。	運動の合間に積極的に水分・塩分補給を行う。
WBGT 21℃未満 乾球温度（目安）24℃未満 ほぼ安全 （適宜水分補給）	…	通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分・塩分の補給は必要である。市民マラソンなどではこの条件でも熱中症が発生するので注意。	適宜水分・塩分補給を行う。

※2 まち探検や理科の観察、写生、集会など